

三国国境の都市バーゼルでの研究生活

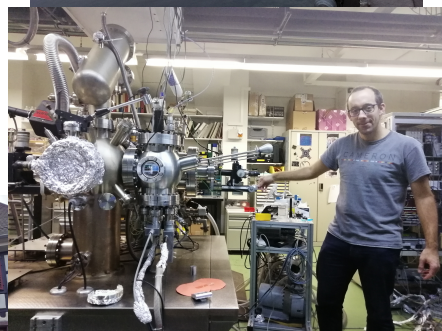
理学系研究科 化学専攻 D2 清水 俊樹

11/14 から 2/7 までの約 3 ヶ月間、スイスのバーゼルにあるバーゼル大学の Ernst Meyer 研究室にて共同研究を行った。研究室先では Dr. Hinaut Antoine, Sherb Sebastian, Pawlak Rémy のもと、On-surface synthesis and nc-AFM observation of organic compound という研究テーマで有機分子を金属表面に蒸着した後に、加熱することでポリマー化し、非接触原子間力顕微鏡により、それらの構造変化やモルフォロジーを観察するという研究を行なった。海外の研究生活というのは日本の大学での研究生活と大きく異なっており、今後の研究人生を考えていく上で大変良い経験となった。また、休日には、バーゼルがスイス、フランス、ドイツの国境付近の都市であるため、これらの国に気軽に足を延ばすことができ、多種多様な異国の雰囲気を肌で感じることができた。最後に、このような貴重な機会を提供していただいた大学の組織の方及び Ernst 研究室のメンバーに感謝申し上げたい、

スイス (ルツェルン)



フランス (コルマル)



ドイツ (フライブルグ)



バーゼルのErnst研究室